

関西現代俳句協会 俳句大会 会報

No. 38

2009. 10. 20

らず、こんなに沢山の方から多くの
秀句が寄せられたことは、主催者一
同にとって、誠にありがたい結果で
あった。

第二回「関西現代俳句大会」開催

ご協力ありがとうございました

―二七七人の方から、一、一二三句！―



「俳句大会及び総会」豊田会長の挨拶

去る四月二十五日

(土)、大阪市中央の「ラ
マダホテル大阪」にお

いて開催された、「第

一回関西現代俳句大

会」は、同日併催の理

事会、総会、懇親会と

共に百十八人の参加者

を前にして行われた。

短期間での投句のお願い

であったにもかかわらず

「第一回関西現代俳句大会」入選句(計、二十一句)

大会賞(一位)

おぼろ夜のどこにも合わぬ鍵ひとつ 柏原 才子(季流)

秀逸賞(二位)

枯れてゆく音を聞きいる火伏神 和田 謹次(草風)

紙雛の折目正しく褪せにけり 荒川 美邦(京鹿子)

霜柱踏んでわが身の不確かさ 垣渕みづほ(暁)

古書店の奥ふくろうの潜んでいる 高田 節子(暁)

入選賞(三位)

木の瘤も仏と見ゆる青葉中 石倉 政子(花藻)

雪の夜のめくれば声の出る絵本 桑田 和子(暁)

大花火見んと軍艦浮上せり 須田 京(藍)

緑陰に居乍らにして過客かな 山本 正(京鹿子)

しゃぼん玉形正してはなれゆく 寺門 良子(藍)

臍の緒の百年枯れてさくら咲く 門脇 章子(海程)

糸遊や二人ときどき独りなり

藤川 弘子 (京鹿子)

風吹けば子の声かとも通路杖

浅野 香澄 (京鹿子)

百畳の一畳に座すさくらの夜

小泉八重子 (季流)

家出半日烏瓜をひっぱり

江南富貴子 (暁)

兄追うてひとりでもどる蝶の屋

井上菜摘子 (京鹿子)

枯野行く火種のような傘さして

村田富美子 (京鹿子)

箸の朱を塗り重ねをり雪催

山田 和 (京鹿子)

恍惚と邪鬼踏まれぬる花の中

井浪 立葉 (寒雷)

まつすぐな道に疲れて春の雲

小池万里子 (暁)

三寒四温柱の見えぬ町に住む

三尾 和子 (暁)

(入選作品は関西現代俳句協会のホームページで紹介しています)

「関西現代俳句大会」の背景

ご承知のように関西現代俳句協会の範囲は近畿二府四県に及び、さまざまな行事は京阪神を中心に行ってきたのであるが、やはり六府県をまとめるためにはもっと広域にわたる行事が必要である。そんな意図から、現在まで五年にわたって、「各府県持ち回り吟行大会」が開催され、滋賀、和歌山、京都、兵庫、奈良と廻ってきて、協会の地方会員との交流も果たされてきた。それが今年の大坂で一順するたため、それに代わる新しい企画が必要になり、その結果生ま



会長による授賞風景

れたのが、この「関西現代俳句大会」である。発表から投句までの期間が短く、会員や一般俳句愛好者各位にもご不満もあったと思うが、とてもかくやるうの意気込みでスタートしたというわけである。

「選者について」

俳句大会としての要となる選者は、次の方々をお願いした。豊田都峰、和田悟朗、花谷和子、谷下一玄、吉本伊智朗、豊長みのる、赤尾恵以、室生幸太郎、小泉八重子、高橋将夫、谷口洋、三宅睦子、吉田成子、若森京子、森田智子、辻本冷湖、日原輝子、川村祥子の以上十八名の方々である。しかもこの選者は毎年半数ほど入れ替えて、新しい選者による新風を吹き込むことにもなった。これは新しい運営方法である。

「投句」

今回は、発表してから僅か一ヶ月であったが、蓋を開け



会場を埋め尽した参加者

てみたら投句者は二七七人、投句数は一、一二二句と言う
予期以上の好成績だ。会員数に当てはめると当に一人一句
の投句になる。これを直ちに「選句稿」にまとめ（もちろ
ん無記名である）、十八人の選者に送り、選句は一人三十
句とし、特選等は一切付けないでお願いした。

選者に発送してから、返送締め切りまで僅か十七日であ
る。これは遅滞なく返送して頂け、有り難いことであった。

「点盛り作業」

次の作業は、いわゆる
「点盛り」である。
これは事務局メンバー
全員が一堂に集まって
の作業。総指揮はもち
ろん豊田都峰会長であ
る。この「点盛り」の
経緯は、うしろに会長
自ら説明されているの
でそちらをご覧いただ
きたい。

「大会当日」

そして、いよいよ大会当日、四月二十五日、会場のラマ
ダホテル大阪にて「関西現代俳句大会」が開かれた。参加
者は投句者も含めて百十八名。豊田会長の挨拶の後、入選
句の披講から始まった。この日の司会はベテランの志波恵
さん（季流）である。会場の正面には和田悟朗顧問初め選
者の皆さんがずらりと並ばれ壮観だ。選者・参加者にはこ
の日初めて「作品集」が渡され、これが入賞者の発表と言
うことになった。その後は、入賞句の披講となり、終わった
ところで豊田会長からの授賞である。入賞者二十一人、全
員出席の中、一位の柏原才子さん、二位の和田謹次さん：
以下に賞品の図書カードが手渡された。

その後、豊田会長、和田悟朗顧問、花谷和子顧問ほか十
人ほどの選者から簡単な講評を頂いた。豊田会長の講評は
次頁に掲載している。時間の都合で全員の選者に講評して
もらえなかったものの、さすがにベテランの主宰・代表な
どの方に参加して頂いただけに適格な批評を頂いた。

終わってからは同じ場所での「総会」。次いで場所を変
えてのにぎやかな懇親会が開かれ、和氣藹藹とした中、盛
り沢山な行事は滞りなく終了した。

（尾崎 青磁）

豊田都峰会長の講評

①入賞の決め方について

全般のこととして入賞の決め方。もし入賞数を越えて同点の場合、同じ作者の他の作品の得た点数、複数あれば勿論加えて決める。多数の作品を出し選者の選句に多く入ることは有利。

②入賞句の感想

私の選句した入賞句から感想少し。

「おぼろ夜」と「合はぬ鍵」の組合せは響き合う。朧の掴み所のなさ。「枯れる音」は発火点に近付くと考えると「火伏神」と出会う。この発想は確か。「折目正しく褪せ」ることは「紙離」の宿命・実相がある。「霜柱踏んで」から「不確かさ」へ持つていったのは手柄。

③類似句の声

入賞の一句が類似句ではないかの声を聞く。類似・類想の問題点は、作者の自覚。してやろうは問題がある。知らないうちのことは短詩形にはよくあることである。しかし主催者側としての対策として次の事を考えている。投句・選句等の日数を十分に取る。選者は経験から似ているとか、おかしいと思えば率直に指摘する。また事務局も協会本部や識者の応援をもらい公正を期してゆく。これらを今後の課題として、第二回、第三回と皆様とともに成功させてゆき、「句集祭」と並ぶ我々の運営の二本柱に育ててゆきたいと念願している。ますますのご協力をお願いします。

広報部から

第三十三回「現代俳句講座」についての反響

京都新聞平成二十一年六月二十六日付朝刊で、現代俳句協会の俳句講座について、左記のように紹介されています。

(広報部 中井不二男)

現代俳句協会が京で講座

活性化目指し関西初、200人参加



初めて開かれた「関西現代俳句講座」

の作品や生き方を読み解き、「それぞれの考えでもって表現しているが、その底には月への信仰が流れていると思う」との自らの考えを語った。

福岡県で結社「自鳴鐘」を主宰する寺井さんは、鈴木六林男や赤尾兜子らの作品を取り上げて、「問い掛ける言葉」をテーマに話した。また、松尾あつゆきが長崎での被爆体験を詠んだ「こときれし子をそばに、木も家もなく明けてくる」などを実際に口にしてみて、「俳句が問い掛けてくる言葉を受け止める心を持つていたいものです」と訴え

現代俳句協会が初めて集った。

の「関西現代俳句講座」同協会副会長の宮坂静生さんと寺井宮さんが講師を務めた。長野県で結社「岳」を主宰する宮坂さんは「月」俳句の原点と題して講演。人類が古来、月を信仰してきた史実を紹介しながら、現代俳句協会は、石田波郷らが1947年に結成、近年はホームページ上のインターネット俳句会なども企画している。

た史実を紹介しながら、現代俳句協会は、石田波郷らが1947年に結成、近年はホームページ上のインターネット俳句会なども企画している。立上げていった松尾芭蕉ら。

(太田敦子)

関西現代俳句協会の底力をこれからも……

関西現代俳句協会

会長 豊田都峰



持ち回り吟行は一回りを致しましたので、諸般を考えての「第一回関西現代俳句大会」の開催でしたが、多くの応募を頂き成功させて頂いたと喜んでおります。

その上に、本部からの要請に応じて開催致しました「第三十三回現代俳句講座」も予定を上回る聴講を頂き、これもまた成功させて頂きました。

今年には梅雨明けも変則、豪雨もあちこちにあり、季節に一段と心を曳かれる私たちにとりたいへん気になるところですが、会員の皆様方にはすこやかに過ごしのこととお慶び申し上げます。

会長に就任して足掛け四年になりました。会員の皆様方のこの上ないお力添えを頂き大過なく務めさせて頂いております。心よりお礼申し上げます。

本当に関西現代俳句協会の持つ力をしみじみと思っております。府県を越えた集まりは、一つの方向性を示しているようです。ブロック制は現代俳句協会の在り方を変えてゆくと信じます。私事ですが、本部の副会長に就任いたしました。ますますのお力添えを頂き頑張つてまいりたく存じています。

事務局便り

(1) 規約の一部改正

事務局の作業が年々煩雑の度を加えてきたため、事務局長補佐の呼称を新たに事務局次長と改める。(規約第二章 会員および役員 第四条に「事務局次長一名」の職務を加える。次長にはこれまで事務局長補佐を務めてきた桑田和子理事が昇格する。

(2) 三月二十八日の現代俳句協会の総会において、関西から次の役員が委嘱された。

副会長 豊田 都峰 会長
理事 鈴木 仁 副会長

室生幸太郎 副会長
森田 智子 理事

（関西の理事は、ほかに赤尾恵以、吉本伊智朗、豊長みのる、小泉八重子、尾崎青磁氏が従来から委嘱されている。計八名）

(3) 平成二十一年度からの各賞選考委員(新任)

現代俳句大賞 豊田 都峰
現代俳句協会年度作品賞 花谷 清

(なお他の賞選考委員には、すでに関西から現代俳句協会年度作品賞選考委員に森田智子、現代俳句新人賞選考委員に久保純夫氏が入っている)

関西現代俳句協会事業報告

平成20年7月～21年6月

会長 豊田都峰



忘年・句集祭会場風景

の結果を、出版した作品集の発表という形で公開するものである。

今年はその三十三回目の開催となった。十二月七日、会場は大阪国際会議場、本部からも安西幹事長のご臨席をいただいた。参加会員は一〇二名。例年を若干超える参加である。参加作品も十九作品であったが、内訳は句集十七点、評論一点、記念誌一点と会員の関心の広さを見せられた。会の運営は、まず理事会から始まったが、大きな問題としては、会員の減少と、経費の増加という矛盾点をどうやって解決するかという、課題の解決であった。端的にいうとその方法は、年間行事の再構築にあった。事務局提案としては、今まで実施してきた年間三回の行事を「総会」と「俳句大会」、「忘年句集祭」の二つに統合し、それにかかわる経費、郵送費、会費等を減少させることにあつ

た。これは理事会及び出席会員の賛同をいただき、来年より具体的に進めることになった。また安西幹事長からは昨年来関西から一〇〇名を超える新会員の入会があつたとの謝意をいただいた。

◆総会・関西現代俳句大会の同日開催

(平成二十一年四月二十五日)

昨年末の「忘年句集祭」で、承認されたように、今年からの行事は思い切つて年二回に統合され、四月二十五日、ラマダホテル大阪にて開催された「総会」と「関西俳句大会」がその口火を切ることになった。といっても俳句大会の運営には相当時間をかけた準備が必要である。しかしこの第一回だけは承認即開始というきついスケジュールとなり、事務局員の皆さんの熱意のおかげで何とか成功に導くことが出来た。



懇親会での和田顧問の乾盃

◆忘年句集祭 (平成二十年十二月七日)

関西現代俳句協会恒例の「忘年・句集祭」は文字通り、その年最後の会員のための親睦会であると同時に、過去一年間の会員の俳句を中心とした研鑽

結果、関西のみの十八名の撰者の委嘱に始まり投句の募集、さらに選句や作品集の作成と続き、最終的には会員外も含めて二百七十七名の方より千二百十二句の応募をいただいた。頭割りにして一人四句強の投句である。来年の第二回以降はゆとりのあるスケジュールで、参加意識の高まりを期待したいところだ。

「俳句大会」と同日開催となった「総会」は、例年なら寥々たる会場である。ところが、今回は大会の流れに乗り、例年を上回る参加者を得ることができた。総会案件の中では決算関係、活動計画及び、新人事として副会長に鈴鹿仁氏（京都／京鹿子）及び理事三名などいずれも承認され、特に追認の形であるが「総会」と「俳句大会」の併催を当分続けることが承認された。なお、来年は四月二十四日、ラマダホテル大阪を予定している。

◆第三十三回「現代俳句講座」の共催

（平成二十一年六月二十日）

特筆すべきことは、昨年まで三十二年間東京のみで運営されてきた「現代俳句講座」が、今年からは一部の地方



現代俳句講座

にも開放され、その口火を切って関西にて第三十三回現代俳句講座が開かれることになったことである。今年六月二十日（土）午後一時から京都市中区の本能寺文化会館に、二百人を超える俳句愛好者を集めて本部事業部との共催の形で開かれた。講演は宮坂静生氏（副会長、岳主宰）による「月一俳句の原点」、及び寺井谷子氏（副会長、自鳴鐘主宰）による「問いかける言葉」

で、各一時間を超える熱弁で聴衆を魅了された。

◆企画委員会・ホーム・ページ

関西現代俳句協会の運営は従来とも事務局で立案したものを、原則として会長の承認のもと理事会、総会の議決を経て執行する手順になっている。本来は運営委員会も一つの機関として機能してきたが、現在では会長出席のもと事務局の局長、次長、部長で構成した企画委員会で諸案件を討議している。これは毎月一回必ず開催し、会長の承認のもとに活動している。

協会の広報活動は年一回であるが十月初旬に発行する「関西現代俳句協会会報」を中心に、いつでも見ることが出来る「ホーム・ページ」が主たる場所として運営されている。ここでは協会や会員に関するニュース、俳句の発表、会員著書の紹介。協会の歴史や関連情報のお知らせ。中でも会員による巻頭エッセイはユニークな存在として際立っている。新聞社等に対する情報発信は広報部が所管しているが、「ホーム・ページ」についてはICIT部で行っている。（尾崎 青磁）

第三十二回「現代俳句講座」

関西初公開——

主催 現代俳句協会事業部
関西現代俳句協会



宮坂 静生 氏

現代俳句協会が初めて「関西現代俳句講座」を平成二十一年六月二十日（土）、京都本能寺会館に於いて開いた。講師は、現代俳句協会副会長の宮坂静生（「岳」主宰）・寺井谷子（「自鳴鐘」主宰）の両氏。会場には近畿一円から二百余名が集まって熱心に聴講した。

宮坂静生氏の「月——俳句の原点」

宮坂氏は、生存の原点としての「月」を取り上げ、空海の「月輪観」、（かちりんかん）「月・花」に耽溺した西行、芭蕉の「月」等を例に挙げ、縄文時代より「月」は信仰の拠りどころであり、俳句の原点でもあると話された。

1、生存の原点としての「月」——縄文幻想

三五〇〇年～四〇〇〇年前の縄文時代より「月」信仰があったということ、（かちりんかん）「人面深鉢」（山梨県須玉町御所前遺跡出土）の写真と図を示しながら説明された。

「人面深鉢」の上部には、お母さんの顔、壺の中心に赤ちゃんの顔があり、人間が誕生しようとする光景、つまり、出産の瞬間を啓示しているという。また、「人面深鉢」の正面は女性の顔、裏面は墓の顔であるという。古来の神話や、中国の伝説の中に示されており、神話では女性「ガマガエル」であり、また、中国「淮南子（覽冥訓）」には、不死の薬を盗み飲み、仙人となって月宮に入ったという嫦娥伝説があり、この女性を月の異称としているようだ。

宮坂氏は「月」の満ち欠けと女性の「月経」との関連性から「月」信仰が生まれたのではないかと話された。

2、空海の「月輪観」

阿字観（あじかん）の根本にある「月輪観」とは呼吸を整えて行う瞑想法であるという。月を瞑想によって自分の中に取り入れ、



★写真は、「人面深鉢」
山梨県・御所前遺跡出土
（須玉町教育委員会）
「八ヶ岳縄文世界再現」（井戸尻考古館 田枝幹宏著、新潮社、1988刊）

宇宙の大きさ
ほどに広げて
意識の限界に
挑戦する「広
観」と、月を
次第に元の大

きさに戻す「斂観」のことである。

「阿字観の宇宙」―「阿」は梵語の母音の基本であり「原子」のごときもの。曼荼羅の代わりに「阿」一字を見つめて、宇宙に思いをはせ、「阿」と自分が一体化するのが悟りの境地である。この修行を「阿字観」という。

「吽」(うん・ふーむ)は梵字の最後に置かれ、口を閉ざして発する音である。「うん」と唱えるだけで、すべてを言い尽くすことができる。

「月輪観」の基本は「阿」・「吽」であり、「あ」は感動、「うん」は堪える語である。物に感動するところと堪える心が悟りの境地である。名句もまた、感動を自分のものにして堪えるところに生まれるのではと結ばれた。

3、西行の月

西行は平安末期・鎌倉初期の歌僧。二十三歳の時、無常を感じて僧となり、高野山、伊勢を本拠に、陸奥・四国にも旅し、河内国の弘川寺で死亡。七二歳。

高野山では、覚鑿上人の月輪観と向き合った。煩惱を払い、心を澄ませて心に満月の仏性を抱くことができるか。「自分を見るに形月輪の如し」との修行である。西行は、月や花に感動する心を持ち、「月・花」へ耽溺した。

吉野山こず糸の花を見し日より

心は身にもそはずなりにき

行方なく月に心の澄み澄みて

果てはいかにとならんとすらん

「果てはいかに」と死を意識した。そこまで月を追い詰め、空海の「月輪観」を徹底的に修行したのは西行だけである。

4、芭蕉の月

芭蕉もまた月を追って旅をした。

「笈の小文」

蛸壺やはかなき夢を夏の月(明石)

「更科紀行」

送られつおくりつはては木曾の秋(「曠野」)

佛ほとけや姨あやめひとりなく月の友(姨捨)

「おくのほそ道」

夏草や兵どもが夢の跡(平泉)

この旅で芭蕉は「不易流行」という俳諧の心をさとった。芭蕉の思想であり「アニミズム的発想」である。

荒海や佐渡に横たふ天の河(出雲崎)

「日々旅にして、旅を栖とす」は芭蕉の思想の具体的表現である。過ぎゆく月日はとどまることを知らない旅人のようなもので、人生もまた旅人のようであるという。旅から旅をつづけた芭蕉は「漂泊の俳人」と呼ばれた。

木曾の情雪や生ぬく春の草(木曾塚)

この句には「芭蕉の死生観」がある。一六九四年、大阪で亡くなり、木曾義仲が眠る義仲寺に葬られた。五一歳。

縄文幻想、空海、西行、芭蕉とそれぞれ表現は異なるが、

その基になっているのは「月信仰」である。「月」こそは未知の素材であると結ばれた。

宮坂氏略歴：「岳」主宰。師系富安風生・藤田湘子。また「地

貌季語」を提唱され『語りかける季語 ゆるやかな日本』で読売文学賞受賞。他、現代俳句協会賞、山本健吉文学賞を受賞。

寺井谷子氏の「問いかける言葉」



寺井 谷子 氏

の句より

淋しきに飯を焚かふよ新米を
新米といふよるこびのかすかなり

太 祇

飯田 龍太

寺井氏は、太祇、一茶、飯田龍太、桂信子、小川双々子、鈴木六林男、林田紀音夫、赤尾兜子、篠原豊作、佐々木翼、横山白虹等の作品を取り上げ、丁寧鑑賞しつつ、作品の「問いかける言葉」には「受け止める心」が大切であると説かれた。寺井氏が取り上げた先人

淋しさに飯をくふなり秋の風

一茶
桂 信子

ごはんつぶよく噛んでゐて桜咲く
たてよこに富士伸びてゐる夏野かな
冬滝の真上日のあと月通る

寒暁や生きてゐし声身を出づる

わが生ひたちのくらきところに寒卵

暑き街虚無僧が来て絶壁なす

風や えりえり さまさばくたに 菫

薔薇立つてゐる下半身は百尋

風の中困憊の赤き河流れ

天上も淋しからんに燕子花

短夜を書きつづけ今どこにいる

身体をはげますために浮いて来い

鉛筆の遺書ならば忘れ易からむ

受けとめし汝と死期を異にする

引廻されて草食獣の眼と似通う

洗った手から軍艦の錆よみがえる

黄の青の赤の雨傘誰から死ぬ

背に亡母われは征く身ぞ冬日中

音楽漂う岸浸しゆく蛇の肌

廣場に裂けた木塩のまわりに塩軋み

ささくれだつ消しゴムの夜で死にゆく鳥

満天の星に旅ゆくマストあり
しんしんと肺碧きまで海のたび

篠原 鳳作

〃

鈴木六林男

〃

林田紀音夫

〃

赤尾 兜子

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

蟻よバラを登りつめても陽が遠い

篠原 鳳作

白日をしぼる蛇身の鳶に垂れ

佐々木 巽

未亡人泣いてみ霊を大きくす

〃

枯芝にいのるがごとく球据ゆる

横山 白虹

ラガー等のそのかちうたのみじかけれ

〃

蝶消えて白き手が砂かきならず

〃

空梅雨に黄なるネクタイひるがへす

〃

最後に松尾あつゆき氏が長崎での被爆体験を詠んだ『原爆抄』を朗読された。

松尾あつゆき『原爆抄』より

昭和二十年八月九日被爆。二児爆死。四歳、一歳。

こときれし子をそばに木も家もなく明けてくる

すべなし地に置けば子にむらがる蠅

十日、長男ついに壕中に死す。中学一年。

炎天、子のいまわの水をさがしにゆく

この世の一夜を母のそばに月がさして顔

外には二つ、壕の中にも月さしてくるなきがら

十一日、みずから木を組み三児を焼く。

とんぼうとまらせて三つのなきがらがきようだい

風、子らに火をつけて、たばこを一本

ほのお、兄をなかによりそうて火になる

十二日、早暁、子の骨を拾う。

あさぎり、兄弟よりそうた形の骨で

あわれ七ヶ月のいのちのはなびらのような骨かな

十三日、子の母も死す。三十六歳。

十五日、妻を焼く。終戦の詔下る。

降伏のみことのり、妻をやく火いませぞ熾りつ

なにもかもなくした手に四枚の爆死証明

松尾あつゆき氏は学生時代から自由律俳句の荻原井泉水に師事して俳句を学び、俳句誌「層雲」の主要同人として活躍した。一九四五年八月九日、長崎に投下された原子爆弾に被爆し、妻子四人を失った。彼は、その極限の悲しみ、痛み、怒りを俳句として詠まれた。

寺井氏の「問いかける言葉」には「受け止める心」が大切と説かれたことの意味を深く受け止めたい。

寺井氏略歴：「自鳴鐘」主宰。「自

鳴鐘」はご尊父横

山白虹が創刊。師

系吉岡禅寺洞・横

山白虹・横山房子。

現代俳句協会賞受

賞等、テレビ、俳

壇誌上で御活躍さ

れています。

(桑田 和子)



200人の熱気溢れる会場風景

新会員の一句

今年度、現代俳句協会にご入会いただいた方々から、寄せていただきました一句を、ご披露いたします。

(中井 不二男)

湖の波音なく寄する十三夜 京鹿子 浅野 香澄
 生身魂田の字の座敷あふれさす 京鹿子 芦田伊津子
 熱帯夜鴨越に母眠る 翰海 網代 勝
 鼓うついずまい凛と夏袴 京鹿子 乾 千珠
 長き夜やこの世の中に非常口 井上 和子
 江の側の旧家の個展 風薫る 花野 小幡 豊美
 饅飯に茶掛けこないだまで昭和 京鹿子 鎌田 政利
 金堂は修理さなかや鯛雲 草樹・自鳴鐘 河口久美子
 掃くものにかがんぼ未だ枯れ切らぬ 京鹿子 北村 峰月
 病む犬囲む家族写真や薔薇を背に 藍 木場 弘
 土埃の里の旧道桑いちご 藍 口村 洋子
 給油して消防自動車の夜長 宿り木 小西 彌生
 ときめきのところがだいじ雲の峰 花筐 近藤 健司
 口移しにもらふ狐火の欠片 らん 嵯峨根鈴子
 台風のを飛べますポリバケツ 杭 清水 怜子
 生垣をくぐりぬける子蟬時雨 辻本 照美
 二カラットほど転がしてゐる芋の露 早春 中井明日美
 月が赤い今夜は誰と眠ろうか ロマネコソテ 中村 猛虎
 朝顔展つるべがあれば楽しかる 京鹿子 西田実紗芳

北嵯峨の空がらんどう桐の花 自鳴鐘 濱口 宏子
 夏に入るかの老老は吾なりき 港 福與 志津
 振りむけばきのふが消ゆる一葉忌 京鹿子 藤川 弘子
 願い事三社三様初詣 花筐 藤富万亀子
 風通す倉の二階に雲の峰 藍 船曳日出郎
 大夕立いやな過去をも流れ去り 京鹿子 松井登与子
 白日の夢を漂う蜥蜴かな 白袋に怒りの拳おさめたる 草樹 三輪 恒子
 すききらいすききらいすきはなすみれ いつき組 藻川亭河童
 百日紅ポリボックスに迷い犬 きりん 森 節子
 溶接のはじける火花大暑かな 藍 山内利律子
 よく転ぶ蚊帳の子右へ左へと マネキンの遠まなざしや水中花 京鹿子 山本 早智子
 止む驟雨傘を開くに手間取つて 藍 吉永 白松
 頷きは萬の慰めソーダ水 京鹿子 吉村紀代子
 新学期俺といふ兄の親離れ 和田 燐子

このほかに、新会員の登録を済ませていただいているのは次の方々です。

井上とし子、大津 京子、久保 智恵、小林あつ子、
 小宮 芳子、佐藤日田路、笹川勢津子、園 澄子、
 田中 満枝、竹嶋 雅子、徳永 洋子、藤井富由木、
 井元 益美、大橋 純子、梶沼 和子、筒井美代子、
 森 和子、長谷川克子、林 冴子、濱本 圭子、
 樋口富貴子、平田 温子の皆さま。

合計57名（平成二十年十二月末までに入会の方）です。

第二回「関西現代俳句大会」の

投句作品を募集しています！

締切は、来年二月十日です…何句でもOKです。

お蔭さまで、第一回「関西現代俳句

協会」は多数の応募句を頂き成功のう

ちに終了しました。引き続き来年四月

二十四日(土)には、第二回を企画して

おります。この「会報二十八号」の到着

と同時に、会員の皆様のお手元には「句集

祭」と合わせてのご案内が届きます。

今回からは時間的余裕をたっぷり取っ

てお知らせいたしますので、沢山の方

のご応募をお待ちいたします。なお、前

回同様、会員外の俳句愛好者の方も応

募して頂けますので、ぜひお友達にも

お知らせください。なお、会員外の方

は当協会ホームページをご覧ください。

①投句料は 三句一組二、〇〇〇円

(何組でも可。会員はなるべく二

組以上お願いします)。

②賞一大会賞一名ほか、秀逸賞、入

選賞(前回は計二十一名入賞され

ました)

③投句用紙は差し上げます。(コピー

可です)

関係スケジュールは次の通りです。

①募集開始・十月以降

②応募締切・二十二年二月十日

(当日消印有効)

③俳句大会・四月二十四日(土) 会

場・ラマダホテル大阪

(関西現代俳句協会 事務局・企画部)

第二回「関西現代俳句大会」の選者は、

次の方々に決まりました。

豊田 都峰(京鹿子) 和田 悟朗・顧問

花谷 和子(藍) 赤尾 恵以(渦)

小泉八重子(季流) 室生幸太郎(暁)

吉田 成子(草樹) 高橋 将夫(槐)

鈴鹿 仁(京鹿子) 和田 謹次(草風)

梶山千鶴子(きりん) 政野すず子(暁)

西村 逸朗(渦・燕の会) 三木 星童(風羅)

出口 善子(六曜) 平田 繭子(風樹)

塚原 哲(花象) 的井 健朗(枕頂点)

以上十八名の方々です。

(敬称略・順不同)

謹 悼

平成二十年八月一日より、本年七月末までの期間中に、現代俳句協会において受け付けた、ご逝去会員のお名前をお知らせし、謹んでご哀悼申し上げます。

記

小川 文子 京都市 京鹿子 (平成二十年七月)

天津 善明 本津川市 雷魚 (平成十九年八月)

森 節子 枚方市 陸 (平成二十一年四月)

岡田 勢津子 神戸市 志鳥 (平成二十年八月)

えつぐまもる 神戸市 志鳥 (平成二十年八月)

奥 美智子 豊中市 青玄 (平成二十一年二月)

小路 用子 西宮市 渦 (平成二十一年四月)

注：協会受付順 (内は退会年月、敬称略)

平成二十一年八月十五日

関西現代俳句協会

関西の俳人から学ぶ

青年部この一年

いつも青年部活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

青年部この一年の活動として、今年一月に第五回勉強会を開催し「桂信子」について学習しました。基調報告のあと、桂信子の主宰誌『草苑』の編集長だった宇多喜代子氏から、桂信子の句やその生涯、生きてきた時代についていろいろな話を聞かせていただきました。参加した面々は、桂信子に師事していた人もいれば、これを機会にその句に触れてみたいというような人たちまでさまざまでしたが、基調報告やゲストの話聞き、また意見交換しながら、句の理解を深めることができたのではないのでしょうか。今後、一人一人が俳句を学ぶ時や、それぞれの句作の糧になればいいと思います。

今後の予定として、秋には鈴木六林男の勉強会、また時期は未定ですが句会なども考えています。開かれた場として、どのような形が望ましいのか試行錯誤を重ねている状態です。行事予定は関西現代俳句協会ホームページでもお知らせしますのでご覧のうえ、ご参加、ご支援をお願いします。また、ご意見ご希望等お寄せいただければ幸いです。

(青年部部长 上森 敦代)

□経理部からのお願い

昨年度は関西現代俳句協会も、会員の退会や諸費の高騰などによって、諸経費や役員に支払うべき手当も大幅に減らし、また郵送費や事務局の関係諸費も抑えるなど、緊縮財政に努めることによつて何とか凌いでまいりました。その結果、徐々に効果が表れてきたよう、会計面では念願の黒字化に近付いてきたと思つています。もちろんまだ十分とはいえず、今後の推移を注意深く見守っている段階です。

その大きな理由の一つは、年間三回の協会の行事を二つにまとめたことにあります。つまり、「四月の総会」、「六月の各府県持ち回り吟行大会」、「十二月の句集祭」を統合し、前期を四月末の「総会+関西現代俳句大会」、後期を十二月の「句集祭」の二つにまとめたことです。その結果、先ず郵送料が大きく減少。何しろ会員がほぼ千百人ですから、十万近くの節約です。それと、高騰する会場の借室料の削減などです。

それと合わせて、通知なども今まで長い間お世話になつて来た郵便局から宅配のメール便に切り替えることにしました。この会報などが皆様のお手元に届くことがその第一号です。これらの措置によつて実際どれほどの額が抑えられるかには、若干の期間が必要ですが、次の総会ではいい報告が出来るのではと期待しています。しかし、まだ世情は不安定であり、経済問題も上昇をたどっているとは言えませんので、主婦の感覚でしつかり締めてゆきたいと思つています。

とはいふものの、協会の会員も次第に高齢化し、退会者もまた多く安心できません。去年からの申し合わせをこれから継続し、「一人ひとりが一会員獲得！」の気持ちで、会員の増加に一層のご協力をお願いします。事務局といたしましても、今後とも経費の節減に努めてまいりますので、各結社の主宰、代表や会員の皆様方もよろしくご協力をお願い申し上げます。

(経理部長 村田富美子)

平成20年度 決算報告

2009年4月25日

(自・平成20年4月1日～至・平成21年3月31日)

関西現代俳句協会 (単位: 円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前期繰越金	1,238,316	総会費	836,003
本部交付金	2,089,000	会議費	96,562
総会費	476,000	吟行会費	366,910
吟行会費	236,000	句集祭費	870,010
句集祭参加費	567,000	青年部助成費	4,230
寄付金 (豊田会長・宇多会長・花谷顧問)	80,000	印刷費	211,142
		事務費	92,750
		通信費	560,603
		交通費	144,720
		役員手当	421,000
		雑費	47,432
		次期繰越金	1,034,954
合計	4,686,316	合計	4,686,316

収入 4,686,316円 - 支出 3,651,362円 = 1,034,954円
 残金 1,034,954円は次年度へ繰り越します。

会計 村田 富美子 印

平成21年4月25日

上記、監査の結果すべて正確且つ適正であったことを認めます。

会計監査 若森 京子 印 川村 祥子 印

平成21年度 予算

2009年4月25日

(自・平成21年4月1日～至・平成22年3月31日)

関西現代俳句協会 (単位: 円)

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
前年度繰越金	1,034,954	総会費(会場費・懇親会費・その他)	800,000
本部交付金(本年度会員数 1,000人)	2,000,000	会議費(諸会議費)	100,000
総会費(懇親会費)	500,000	俳句大会費(会場費・賞品費・諸雑費)	500,000
俳句大会参加費(投句料)	748,000	句集祭費(会場費・懇親会費・その他)	750,000
句集祭参加費(懇親会費)	560,000	青年部助成金	200,000
青年部参加費	40,000	印刷費(会報・封筒代・その他)	200,000
		事務費(事務用品)	200,000
		通信費(郵送料・電報電話代・その他)	450,000
		交通費	200,000
		役員手当	450,000
		雑費(慶弔費込)(消耗品代)	50,000
		次期繰越金	982,954
合計	4,882,954	合計	4,882,954

事務局便り

(4) ICT部短信

ホームページに掲載中です!

◆今月のエッセイ欄

二〇〇九年度

- 一月 「大野越前と雪」 高橋 将夫
 - 二月 「二〇〇八年十二月七日という一日」 小俣英之助
 - 三月 「俳句への視点」 鈴鹿 仁
 - 四月 演能「隅田川」 政野すず子
 - 五月 「山蛭」 吉田 成子
 - 六月 「春の夢」 三木 星童
 - 七月 「京都東山点描」 西川 吉弘
 - 八月 「自然の不思議」 磯野 香澄
 - 九月 「天上の想い」 池田 潤治
- 「今月のエッセイ」執筆の依頼については事務局から順不同でお願いしています。

◆会員の著作(二〇〇九年度分)

佐藤眞隆・佐藤和子

『木魚&大黒さん』 一月

橋間石(和田悟朗編)

『俳諧余談』 三月

高橋将夫 『神髓』

四月

波平光恵 『愛しい女たち』 四月

若森京子 『藍衣』 七月

室生幸太郎 『昭和』 九月

十一月二十九日開催の句集祭に向け、会員の句集発行情報をお寄せ下さい。

◆その他のホームページ掲載情報

・第五回青年部勉強会(テーマ 桂 信子)

ゲスト 宇多喜代子氏

日時 二〇〇九年一月二十四日(土)

午後二時〜五時

場所 (財)柿衛文庫

・「関西現代俳句協会俳句大会」、「二〇〇九年度総会」および「懇親会」

日時 二〇〇九年四月二十五日(土)

・「現代俳句講座」の開催

日時 二〇〇九年六月二十日(土)

午後一時から四時半

講師およびテーマ

・宮坂 静生氏(「岳」主宰)

テーマ「月」俳句の原点

・寺井 谷子氏(「自鳴鐘」主宰)

テーマ「問いかける言葉」

会場 京都本能寺会館5F

第三十三回の現代俳句講座が関西にて初めて開催され盛会の内に終了しました。約200名の方々のご参加あり

がとうございました。

※ホームページ連絡先

ホームページを活用して下さい。

T603-8805

京都市北区西賀茂蟹ヶ坂町122-3

関西現代俳句協会ICT部 花谷 清

(5)四月二十五日の関西現代俳句協会総会において、次の役員が任命された。

副会長 鈴鹿 仁 理事

理事 出口 善子

三木 星童

前田 霧人

なお、石田香枝子理事は役員定年規定及び健康上の理由で、顧問に就任された。また、増田耿子企画部長は健康上の理由で辞任。理事として残られる。企画部長の職務は当分の間、事務局長の兼任とする。

関西現代俳句協会

会報・第三十八号

発行・平成二十一年十月二十日

発行人・豊田 都峰

編集人・尾崎 青磁

事務局

〒六一一一〇〇一四
宇治市明星町二一六一一 尾崎方
TEL/FAX 〇七七四一三三一四五九